第２３５回 京都市考古資料館文化財講座 『清盛の時代』

第３回　吉田・岡崎

平成 24 年（2012）４月 28 日（土）

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所　内田 好昭

1　吉田・岡崎という地域
2　古墳と鵺塚
3　鵺塚発掘（その１）
4　鵺塚発掘（その２）
5　畏れられた鵺塚
6　白河街区とその周辺
7　都市化しなかった吉田・岡崎
8　京都大学西部構内遺跡が語るもの
9　塀と溝で囲われた屋敷
10　絵巻物に見る屋敷
11　　地層から見た屋敷の環境
12　　玉石積みの起源と流行
13　　高麗青磁梅瓶の出土
14　　梅瓶＝「瓶子」、その用途は？
15　　やがて日本製の「瓶子」が…

主な引用・出典

〇白河殿・六勝寺について
・杉山信三『院家建築の研究』吉川弘文館、1981 年。
〇鵺塚について
・丸川義広「「鵺塚」古墳の検出と岡崎御幸の道筋」『研究紀要』第 3 号、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1996 年。
〇京都大学西部構内遺跡について
・『平成 8 年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1998 年。
・『一遍上人絵伝』日本の絵巻 20、中央公論社、1988 年。
〇平安時代後期の戦闘、防御施設について
・川合康『源平合戦の虚像を剥ぐ 治承・寿永内乱史研究』講談社、1996 年。
〇瓶子について
・『慕帰絵詞』続日本の絵巻 9、中央公論社、1990 年。
・『石山寺縁起』日本の絵巻 16、中央公論社、1988 年。
・『世界陶磁全集』18　高麗、小学館、1978 年。
・長谷部楽爾『磁州窯』陶磁大系 39、平凡社、1974 年。
・奥田直栄『古瀬戸』日本陶磁大系 6、平凡社、1989 年。

1　吉田・岡崎という地域

平清盛が活躍した時代、岡崎には整然とした区画の中に院の御所と院の寺院が置かれていました。当時、「白河」と呼ばれたこの地域の周辺は、どのような景観のなかに、どのような人々が暮らしていたのでしょうか。今回は、「清盛の時代」シリーズ「白河・六勝寺」の番外編です。

図1-1　吉田・岡崎地域地図

2　古墳と鵺塚

現在の岡崎グランドの場所で行った発掘調査で古墳が見つかっています。この古墳は最近までその痕跡が地上に残っていました。その名は「鵺塚（ぬえづか）」。
院政期の六勝寺のなかにあっても姿をとどめていた「鵺塚」は…。

図2-1　古墳時代の吉田・岡崎

3　鵺塚発掘（その１）

岡崎グランドの鵺塚は、後高倉太上天皇の陵墓参考地として、昭和30年（1955）まで岡崎グランド内に残っていました。施設計画上、障害になるというので撤去の方針が決まり、発掘してみたところ…。

図3-1　鵺塚墳丘写真（東から　昭和30年撮影）

図3-2　鵺塚「主体部」出土の瓦器

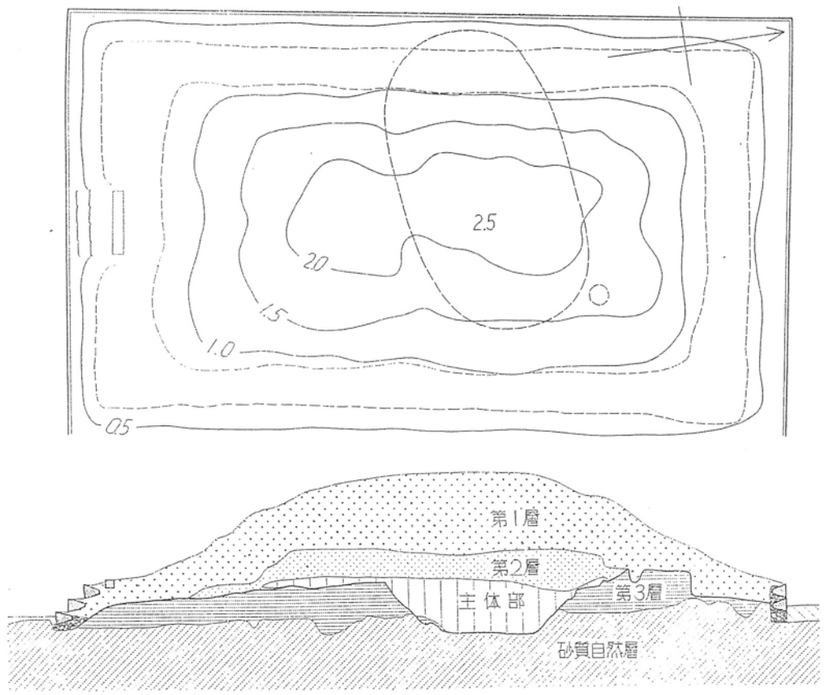

図3-3　鵺塚の平面図と断面図

4　鵺塚発掘（その２）

平成３年（1991）、岡崎グランドに地下駐車場を作るというので、工事着手前に発掘調査を行いました。発掘の予定地は、かつて鵺塚があった場所を含むものでした。図らずも、鵺塚の2回目の調査となったのです。この発掘で、新たに分かった鵺塚の意外な真実とは…。

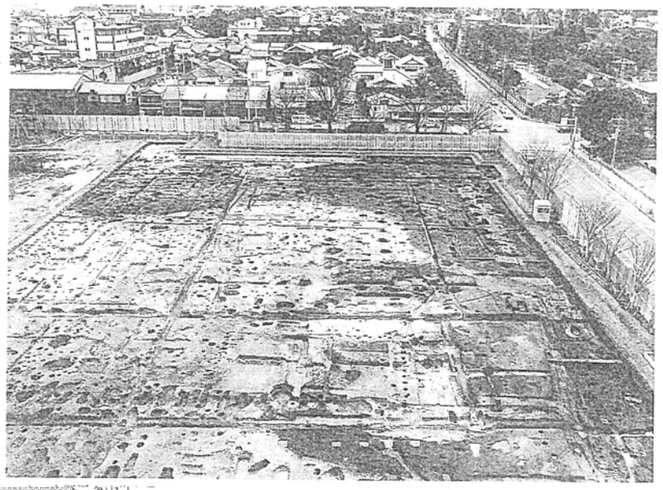

図4-1　鵺塚古墳検出状況（西から）

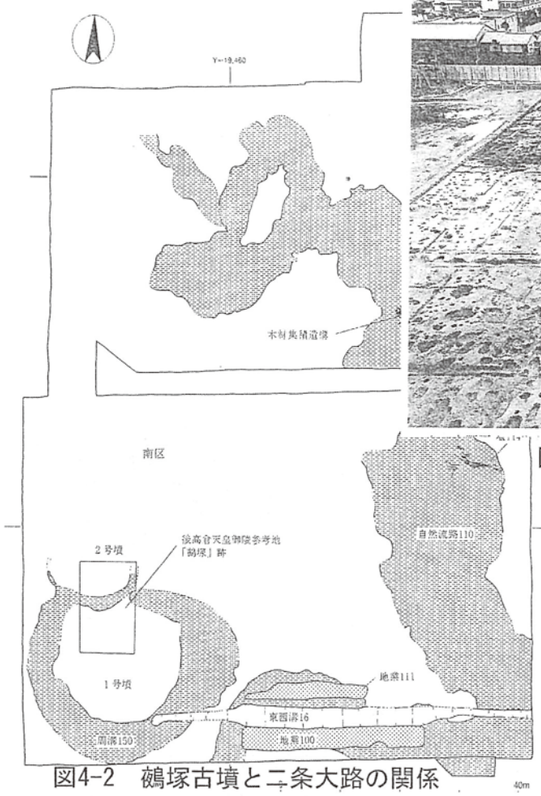

図4-2　鵺塚古墳と二条大路の関係

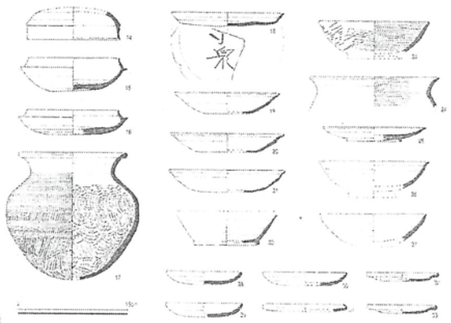

図4-3　鵺塚古墳の周溝出土土器

図4-4　二条大路末北側の築地基礎跡

5　畏れられた鵺塚

６世紀に作られた古墳「鵺塚」は、白河の新街区のなかのメインストリート二条大路のかたわらにその姿をとどめていました。丸川義広さんは、藤原定家の『明月記』に記された法勝寺御幸経路を分析しています。そこから浮かび上がる「鵺塚」を畏怖する人々の姿とは…。

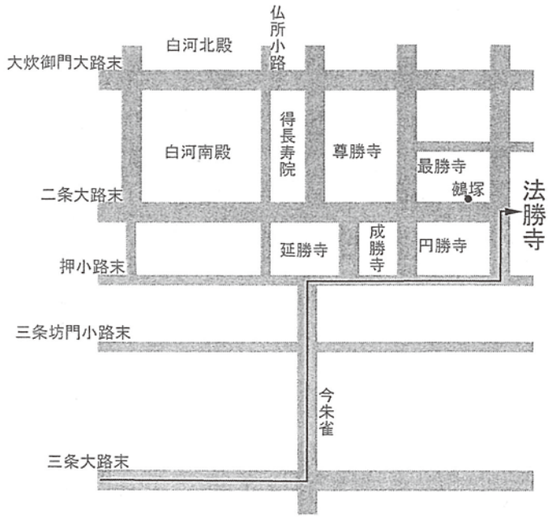

図5-1　『明月記』建仁2年（1202）1月12日

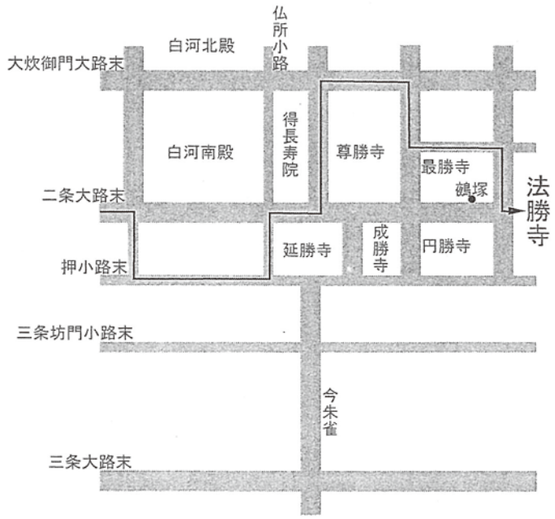

図5-2　『明月記』建暦2年（1212）1月9日

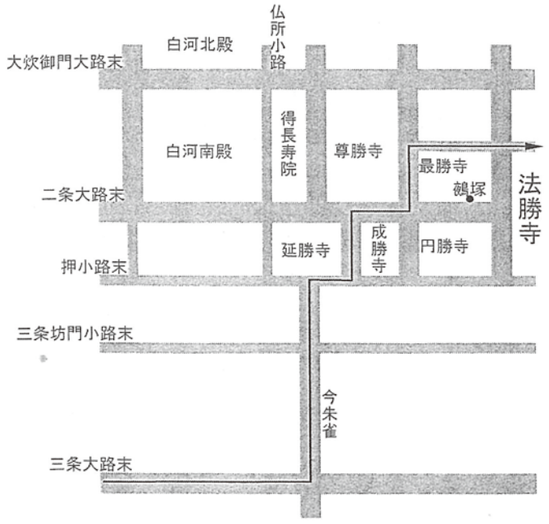

図5-3　『明月記』建暦2年（1212）10月4日

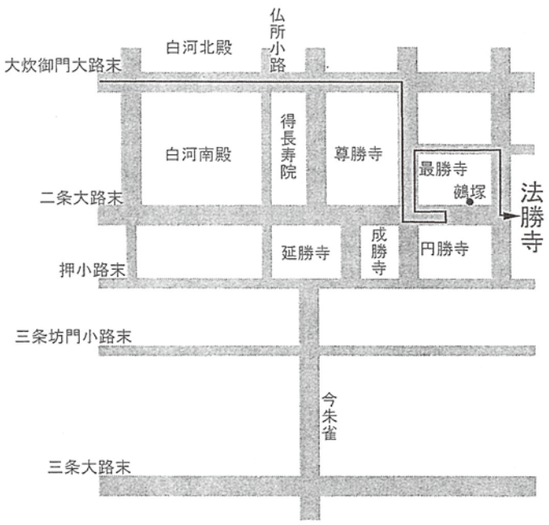

図5-4　『明月記』建保元年（1213）4月25日

6　白河街区とその周辺

六勝寺と院の御所などで構成される白河の周辺は、どのような様子だったのでしょうか。遺跡の発掘調査の成果から、探ってみることにいたしましょう。

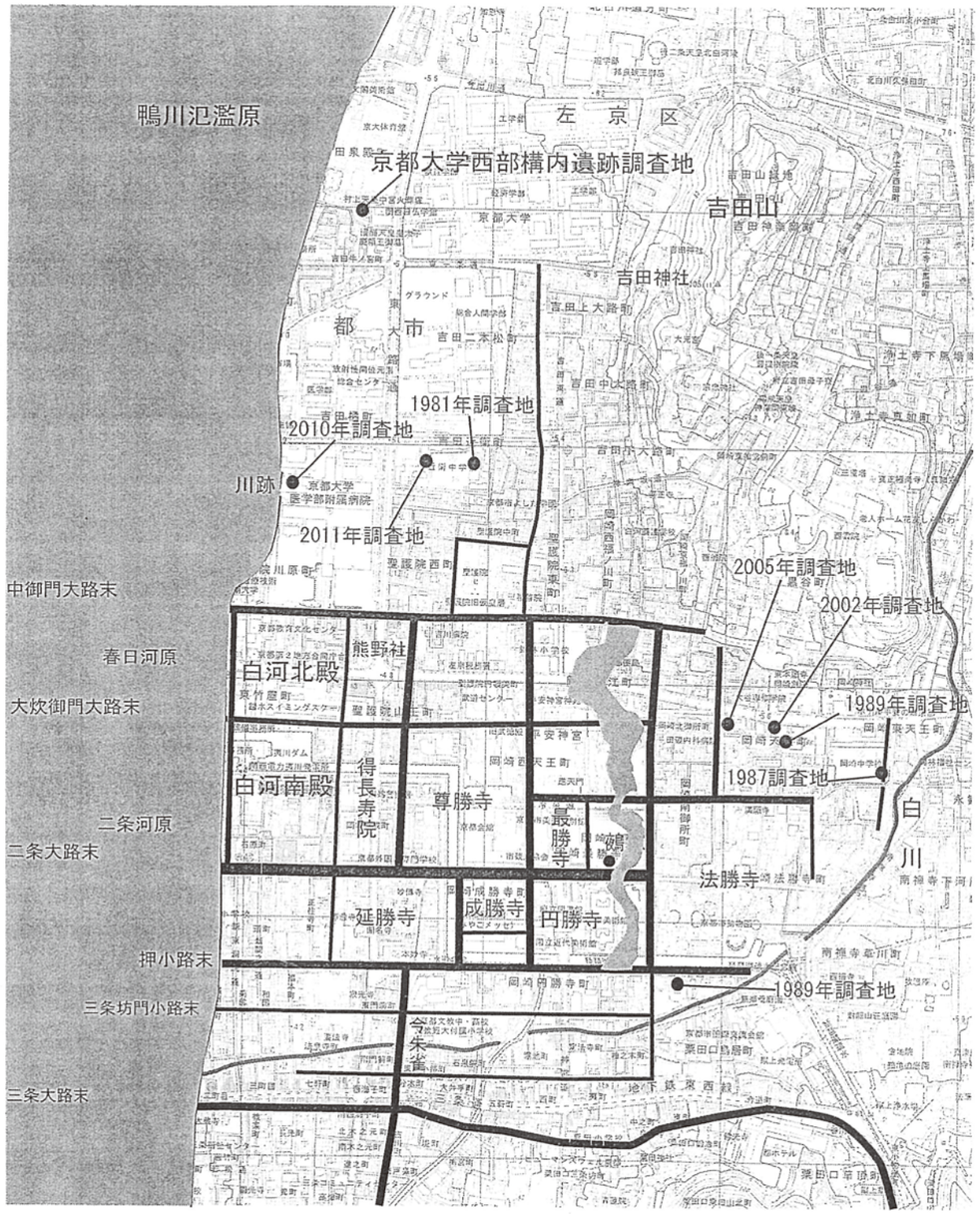

図6-1　白河街区と周辺の発掘調査地

7　都市化しなかった岡崎・吉田

白河街区周辺の調査成果を見ますと、12世紀頃より人々が集まり都市を形成する動きがうかがえます。しかし、六勝寺の衰退とともに農村化し、江戸時代には、田園風景が広がります。では、都市「白河」は、どこにあったのか…。

図7-1　2005年調査の平安後期の遺構

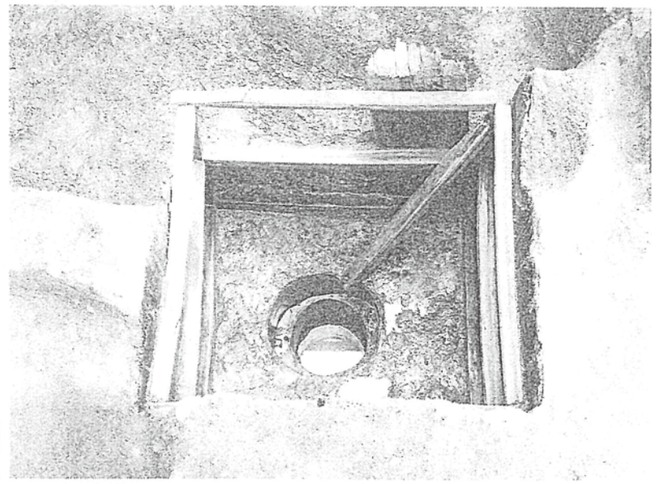

図7-2　2005年調査の平安後期の井戸

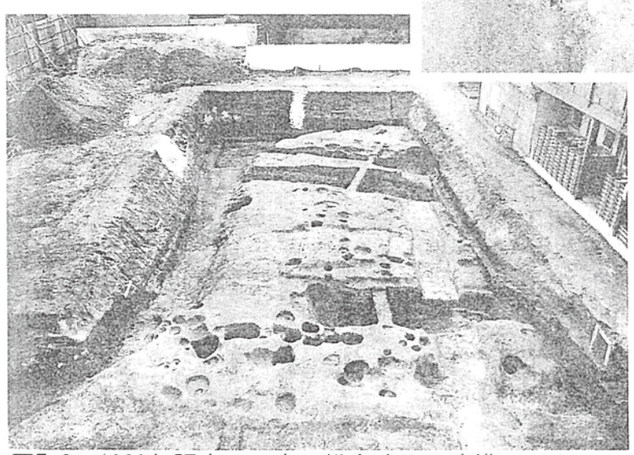

図7-3　1989年調査の平安～鎌倉時代の遺構

8　京都大学西部構内遺跡が語るもの

京都大学西部講堂の南側で平成8年度に実施した発掘調査で、１軒の屋敷跡が見つかりました。時代は12世紀終わりごろ。発掘の成果から浮かび上がる。この屋敷の住民の姿とは…。

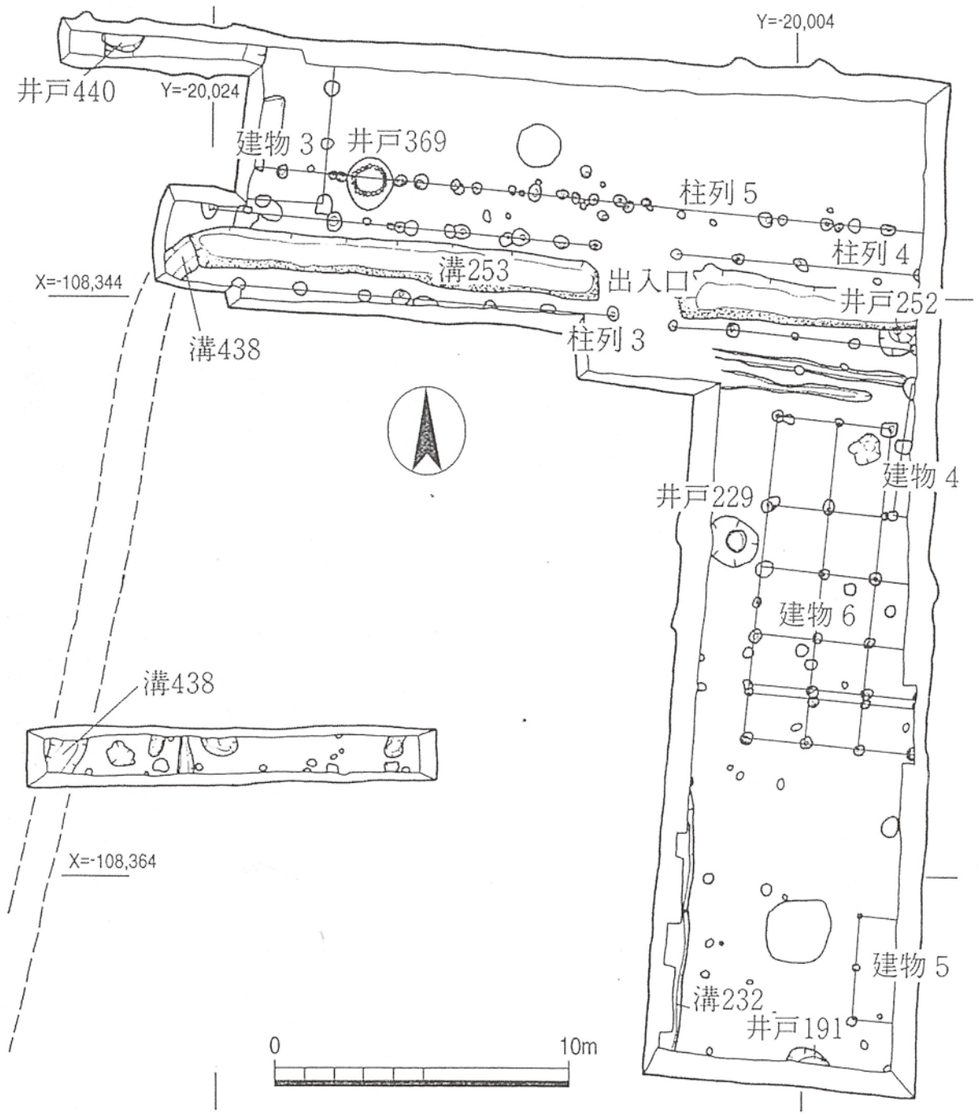

図8-1　京都大学西部構内遺跡　遺構平面図

9　塀と溝で囲われた屋敷

見つかった屋敷跡は、井戸や簡素な建物の周囲に、川原石で護岸された溝がめぐっていました。また、溝の内側には塀がめぐらされていました。そればかりか、溝の外側にも2列の塀の跡が見つかったのです。この塀はいったい…。

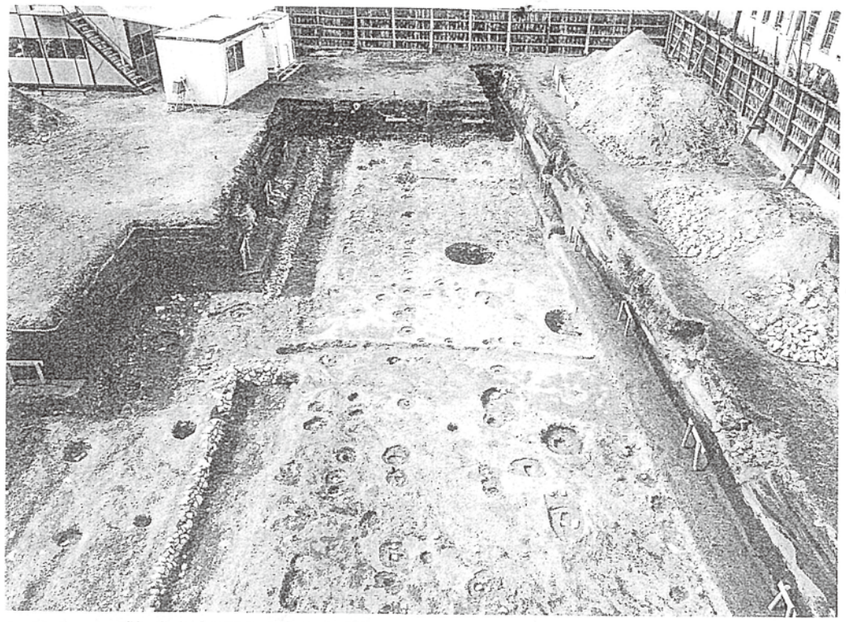

図9-1　屋敷跡北側の塀跡と堀跡

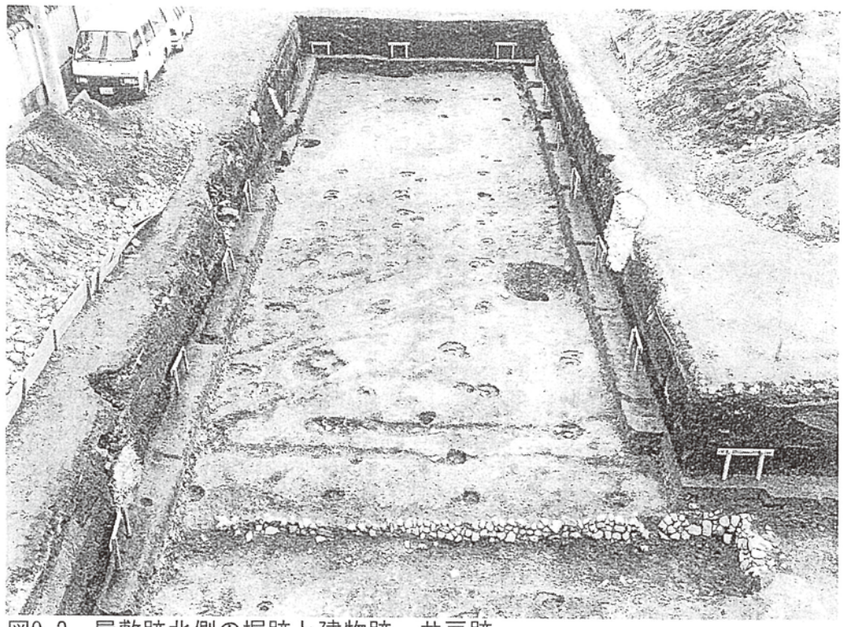

図9-2　屋敷跡北側の堀跡と建物跡、井戸跡

10　絵巻物に見る屋敷

鎌倉時代の終わりごろに描かれた「一遍上人絵伝」には、発掘された屋敷跡に良く似た屋敷が描かれています。屋敷の主は…。

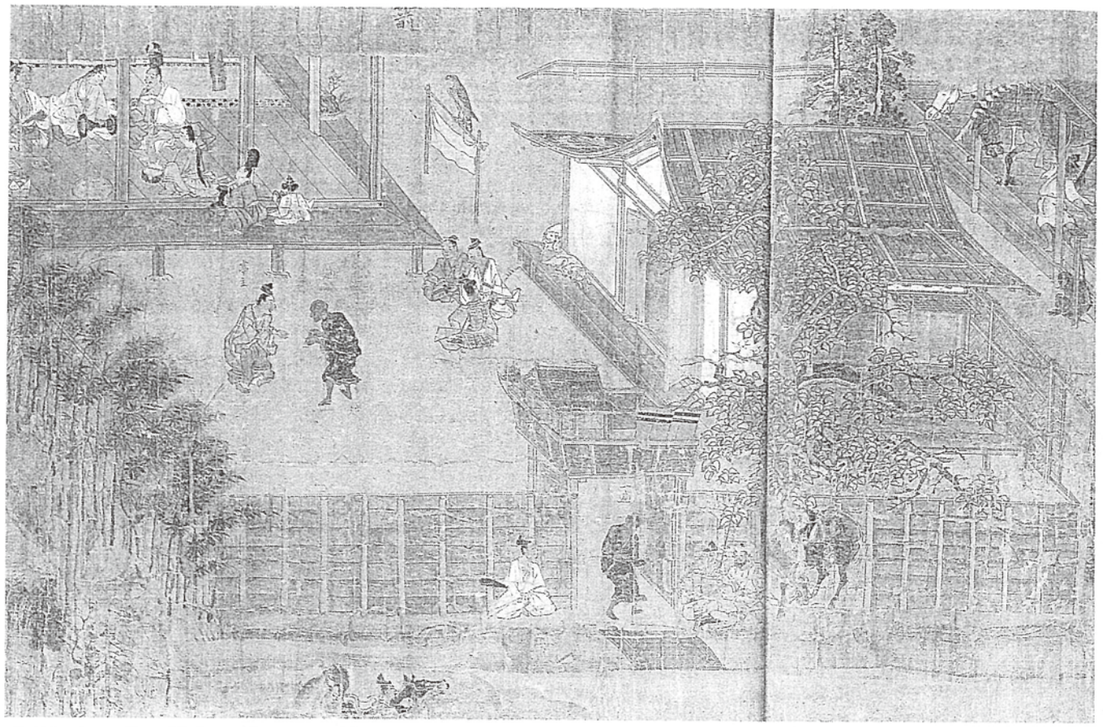

図10-1　「一遍上人絵伝」に描かれた武士の屋敷（中央公論社『日本の絵巻』20より）

11　地層から見た屋敷の環境

遺跡の地層を調べると、その場所のかつての環境を知ることができます。屋敷跡が見つかった地点の地層を観察してみると、この場所は何と…。

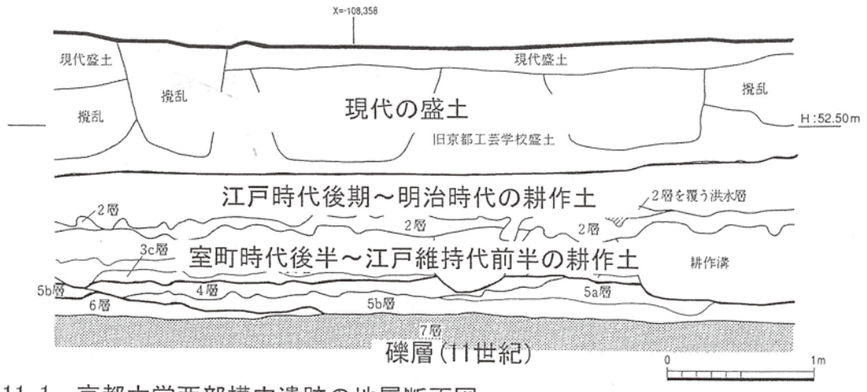

図11-1　京都大学西部構内遺跡の地層断面図

12　玉石積みの起源と流行

京都大学西部構内遺跡で見つかった武士の屋敷跡。その周囲を廻る溝は川原石による護岸がなされていました。川原石は院政期の土木工事、とりわけ地盤改良工事に頻繁に用いられた資材です。この頃から井戸などにも用いられることに…。

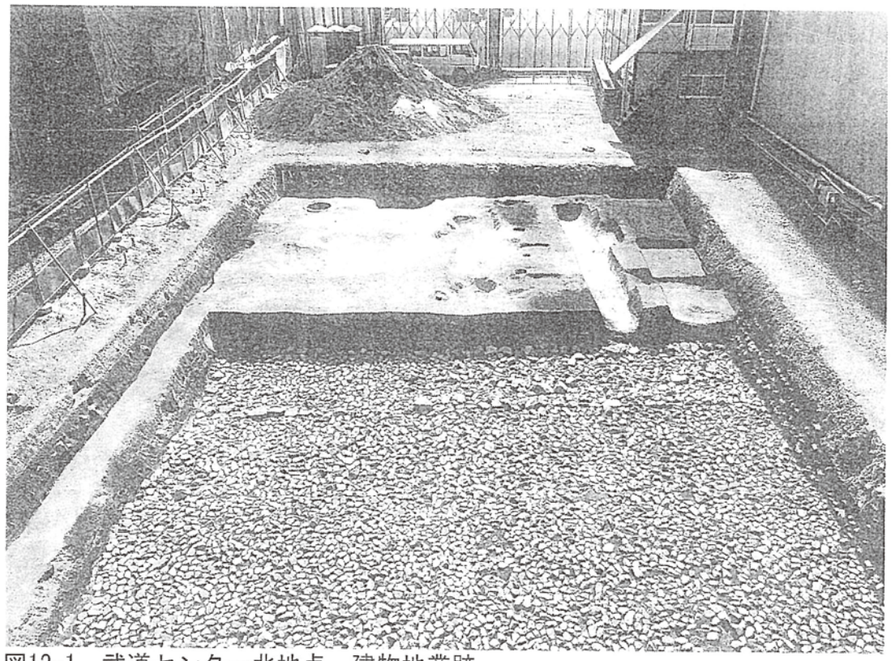

図12-1　武道センター北地点　建物地業跡

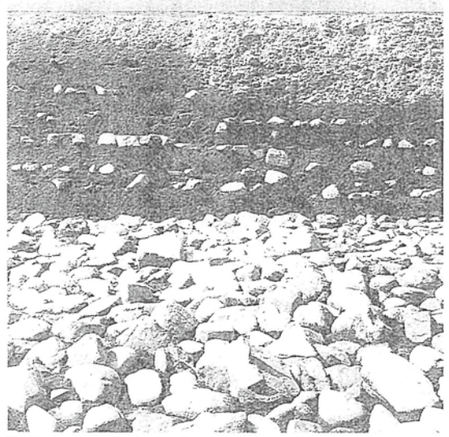

図12-2　同上細部

図12-1　武道センター地点　石組井戸断面

13　高麗青磁梅瓶（メイピン）の出土

京都大学西部構内遺跡で見つかった屋敷跡から、高麗青磁の通称「梅瓶」とよばれる器が出土しています。高麗青磁自体が出土例の少ない貴重なものですが、はたしてこの「梅瓶」の正体とは…。

図13-1　現在、京都市考古資料館で展示中の出土した高麗青磁梅瓶

図13-2　出土した高麗青磁梅瓶実測図

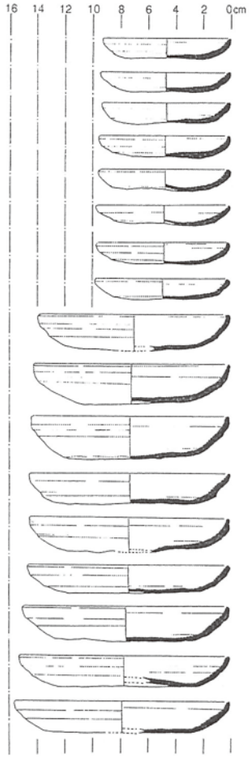

図13-3　出土した土師器皿

14　梅瓶=「瓶子」、その用途は？

梅瓶は当時「瓶子」と呼ばれていたようです。梅瓶＝瓶子によく似た器が13世紀から14世紀に描かれた絵巻に描かれています。絵画からうかがえる瓶子の用途とは…。

図14-1　「慕帰絵詞」に描かれた瓶子　1

図14-2　「慕帰絵詞」に描かれた瓶子　2

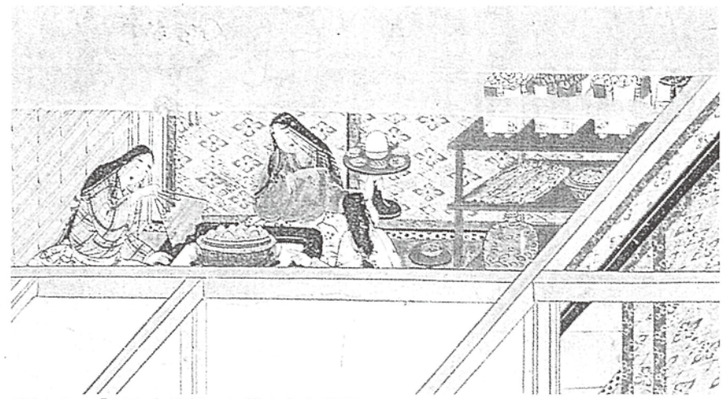
図14-3　「石山寺縁起」に描かれた瓶子

15　やがて、日本製の瓶子が…

瓶子は、平安時代には宋や高麗からの輸入品しかありませんでしたが、鎌倉時代になると愛知県の瀬戸窯で大量に生産されます。運ばれた先は主に鎌倉。武士たちはさぞかしお酒好きだったと見え…。

図15-1　高麗青磁の瓶子（12世紀）

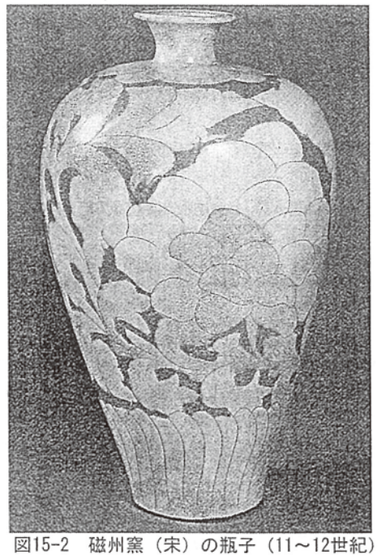
図15-2　磁州窯（宋）の瓶子（11～12世紀）

図15-3　瀬戸の瓶子（13世紀）

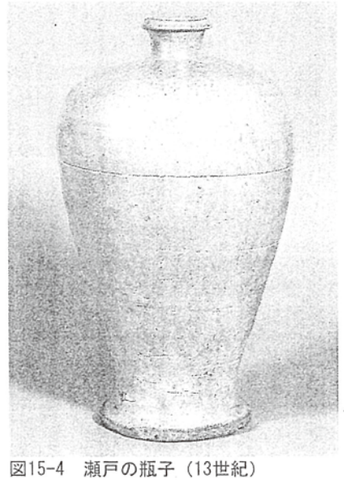
図15-4　瀬戸の瓶子（13世紀）